

# If Winter comes, can Spring be far behind ?

～Ode to the West Wind by Percy Bysshe Shelley



新しい年が明け、日も長くなってきています。

寒さが身にしみる日が続いていますが、少しずつ春の訪れが感じられる今日この頃です。左の写真では少し見えにくいですが、校庭の木々の枝の新芽が寒さに耐えながら日に日に大きくなってきているのがわかります。

さて、1月25日(水)に1年生の各学級で研究授業が行われました。本校の先生方が各クラスに分かれ行われた授業を参観させていただき、勉強しました。その後の反省会では教科の専門的な内容や指導方法についての検討を行いました。その節には1年生のみなさんの成長や各クラスで4月から創りあげてきた温かい雰囲気や授業中に伝わった、という声が聞かれました。「なかま作り」もどんどん進んでいますね。



現在3年生はそれぞれの進路決定を目前にして、最後の詰めに入っています。

2年生は最上級生への進級を目前にリーダーとしての自覚が芽生えてきています。



時は春に向けて、着実に秒針を進めています。地上からは見えないけれど、秋に植えられたチューリップなどの球根は今、冷たい地中で春の芽生えの準備を着々と進めています。彼らはただ、寒いから、その土の冷たさにひたすら耐えているのではありません。冷たい土の中で、自分の中に花の栄養となる糖分をため込み、やって来る春の日ざしに美しく花を咲かせる準備をしているのです。



まだまだ寒い日が続きますが、その寒さを乗り越えるからこそ、暖かい季節の到来はうれしくもあり、ありがたいものであると感じるのは私だけでしょうか。まさに「冬来りなば、春遠<sup>きた</sup>からじ」。因みに今回のタイトルはこの表現の原文です。これはイギリスの詩人シェリーの詩が出典です。原文の詩の内容を知りたい人は、是非調べてみてはいかがでしょうか。